

## “レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

### Q. おたずね

例年より暑い日が続いていますね。

犬の散歩をしていると、午前中でも荒い息をされていてきつそうです。

犬も熱中症になると聞きましたが、どんな症状でどんな処置をしたらいいのですか？



### A. こたえ

犬はパンティングによって過剰な熱を放出します。また、ごくわずかですが、足裏のパッドから汗を通して放出します。しかし、気温の高いところで激しい運動をしたり、高温多湿な場所に閉じ込められたりすると、熱の放出が不完全になり、体温が急激に上がって熱中症になるそうです。

具体的な症状としては、パンティング、口から泡を出す、歯茎が真っ赤、体温が40℃以上になる、嘔吐下痢、虚脱などがあげられます。特に、体温が40.5℃以上になると危険な状態になり、ただちに体温を下げないと死に至ります。

対処法としては、まず暑い環境から移動させ、冷水で体温を下げます。アイスパックで鼠蹊部や頭部を冷やしたり、少量の食塩を加えた冷水を飲ませたりすることも有用です。そして、応急措置の後は、一刻も早く獣医師に診てもらうことが重要だそうです。

また、車中での発症も多いそうです。車中に残された犬は興奮しやすく、窓を引っかいたり鳴きわめいたりします。ほんの10分で体温が40℃を超えることもあり、生死に関わる可能性が出てくるそうなのです。

しっかり対策をして、ペットと夏のお出かけを楽しんでください。

### 【参考資料】

『犬の家庭医学大百科』（ブルース・フォーグル著 ペットライフ社）【645.6/7/】

『イヌ・ネコ家庭動物の医学大百科』（パイ・インターナショナル）【645.6/ヤ/】

『犬の事典』（アメリカン・ケンネル・クラブ著 DHC）【R645.6/7/】

『週刊朝日』（2013.8.9号特大号 朝日新聞社出版局）



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4212 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp

(裏面もあります。)